Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

① 7月10日：
災害の軽減・救済時の通信確保に新たな道
ITUとThuraya が衛星携帯端末利用でパートナーシップ
Stepping up communications for disaster mitigation and relief
ITU and Thuraya forge partnership for portable satellite terminals
（出典：http：//www.itu.int/newsroom/press_releases/2006/12.html）

2006年7月10日 ジュネーブでITUとThuraya Satellite Telecommunications Company は、災害の軽減・救済を目的とする衛星携帯端末の供給に関し合意した。Thuraya（アラブ首長国連邦の衛星通信会社）は携帯型の衛星通信用端末とソーラーチャージャーを寄贈し、ITUは通信料金と通信機器を被災地へ運ぶ往復輸送費を負担する。また救援に携わる担当者への研修もITUが担当する。最近多発している自然災害や災難を踏まえて、2006年3月、ドーハにて開催された世界電気通信開発会議（WTDC-06）では、ICTを利用した早期警報システムの構築や災害対策、災害軽減策などを検討するようITUに求めていた。被災者の探索や救助、医師や医薬品の手当て、効果的・効率的な復旧作業のためには、災害の直後から救助機関が情報にアクセスできること、また被災地、国の防災・災害支援機関そして国際的な防災・災害支援機関との間に効率的・包括的な連絡網を作ることが緊急重要課題となっている。残念ながら、現在の地上通信網では、被災から数時間は使えないことが多い。これに対し、Thurayaの端末は衛星通信用端末であるためいつでも使用可能であり、音声、データそしてGPSによる位置特定が利用可能である。災害時における通信を確保していくためには、マルチステークホルダーによるパートナーシップが必要である。この点からも、今回のパートナーシップは大いに歓迎される。

② 7月20日：
グローバルな情報社会の構築に向けた一歩
国連機関、WSISアクションプラン実現のために協調
International steps taken to build global Information Society
United Nations agencies to coordinate implementation of WSIS Plan of Action　objectives
（出典：http：//www.itu.int/newsroom/press_releases/2006/NP05.html）

7月14日、22の国連機関の代表がITUへ集い、UNGIS（United Nations Group on the Information Society）会合が開かれた。UNGISは地球規模での情報社会の構築に向けて、国連内の各機関における作業の重複を避ける一方、本質的・政策的事項については相乗効果を出せるようにすること、グローバル情報社会の目的や目標についてより広く理解してもらうことを目的として、コフィ・アナン事務総長の呼びかけによって作られたものである。UNGISでは、このグループの効果を最大限に発揮するために、毎年1～2件の分野横断的テーマを選び、総力を挙げて取り組むこととした。本年のテーマとして、マルチメディア・コミュニティセンターやテレショップを利用した通信へのアクセスの確保が選ばれた。また、参加メンバーの専門分野であるe-healthやe-tourismなどのアプリケーションについても取り組むこととした。さらに、UNDP（United Nations Development Program）が指定する1～2か国をモデル国として、その国に対する電子化戦略や政策を検討し、情報社会への移行に向けた成功事例集（ツールキット）作りに役立てることとした。活動1年目の今年は、ITUが議長、UNESCO,UNDP,WHOが副議長を務めることとなった。

③ 7月21日：
リベリア難民帰還者が初めてITU/UNHCR のICT研修センターを卒業
職業訓練は紛争後の新たな生計のかてとなる
First Liberian returnees graduate from ITU/UNHCR ICT Training Centre
Vocational training provides new means of livelihood in post-conflict situations
（出典：http：//www.itu.int/newsroom/press_releases/2006/13.html）

2006年7月21日、リベリアの首都モンロビアにあるICT研修センターを、2か月にわたるコンピュータ技術の集中研修を終えたリベリア難民帰還者29名が卒業した。このICT研修センターはITUが建設し、ITUと国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が管理・運営している。また、この難民帰還者に対する職業訓練プロジェクトには、リベリアの二つの非政府組織the Liberia Opportunity Industrialization Centre（LOIC）とthe Foundation for African Development Aid（ADA）が参加しており、ADAは施設の復旧やリベリアのモバイルオペレータCellcom Telecommunications Inc.とともにインターネット接続、公衆電話の設置を行っている。このセンターの定員は60名、研修期間は2か月であり、コンピュータのコア技術、メンテナンス技術そして起業のための技術を教えている。帰還者の研修費は無料であるが、帰還者以外は小額有料である。また、インターネットカフェでのe-mail、インターネット、コピーなどの使用料は有料である。この研修センターはITUとUNHCRとの協力による初の取組であり、資金が許せば、他のリベリア国内の都市やブルンジ共和国、シエラレオネ共和国、コンゴ民主共和国などを含む紛争後のアフリカ諸国にも広げていく予定である。

E-flash

④ ITU-T e-Flash Issue No.26 （7月18日）：
（出典：http：//www.itu.int/ITU-T/e-flash/026-jul06.html）

・国際インターネット接続料（IIC）は高すぎる
Cost of International Internet Connectivity （IIC） Too High Says ITU Group

2006年6月19～27日、ジュネーブで開かれたITU-T SG3会合のトピックスは、発展途上国に対するインターネットバックボーンへのアクセスコストの高さであった。IICの課金方式は、小さなネットワークや開発途上国に不利であると言われているが、SG3は、IIC（international internet connectivity）に関する活動の現状と今後の活動計画を、2006年10月30日～11月2日にアテネで開催されるInternet Governance Forumに報告する予定である。この問題は、先のWSISにおいて、チュニス・アジェンダ27-CとしてITUに委任された重要な問題でもある。

・車のICT：フォーカスグループとイベント
ICT in Cars：Focus Group and Event Announcement

ITU-Tは、自動車に関係するICTの標準化を目指すFocus Group（FG）を新しく作る。また、2007年3月にはワークショップの開催も予定している。FGでは、車外から自車へ、車の中で、自車から他車への通信を対象とし、2006年6月5～13日に開かれたSG12会合では、以下のような事項を研究することとなった。

・自動車内でのハンズフリー通話：品質パラメータ及び試験方法
・ハンズフリーシステムとラジオチャンネルとの相互間の影響
・広帯域ハンズフリーシステム
・車中における音声認識システムに特化した要求条件/試験方法

FGでの検討結果は、ITU-Tの正式な勧告として承認を得るためにSG12に提出される。SG12のこの分野での検討は、2003年に開かれたWorkshop on Standardization in Telecommunication for Motor Vehiclesが始まりである。FGとしたのは、自動車製造業者や標準化機関及び本件にかかわる要求事項や仕様書の作成に関係する人々により多数参加してもらうためである。2007年1月に第1回の会合を開催し、2007年の3月ジュネーブモーターショウの期間中に第2回を開催の予定である。また、モーターショウの期間中3月7～9日には、「完全にネットワーク化された車、車内での情報通信技術」と題するワークショップをITU、ISO、IECで共催する予定である。

・JPEG20周年を祝し新ソフトウエアを発表
20 Years of JPEG Celebrated With Software Launch

ITU-TとIJG （the Independent Joint Photographic Expert Group）は、CCITT/ITU-T と JPEG （ISO Joint Photographic Expert Group）の連携20周年を祝い、より効率的な新しい圧縮ソフトウエアのαバージョンを公開した。新しいソフトウェアは、ITU-T勧告T.851として知られるものでJPEGの圧縮度を向上するとともに書き込み読み出し時間を短縮するものである。このオープンソースソフトウェアの製作グループは、いろいろな人に使ってもらい、感想を聞かせてほしいと言っている。T.851は、JPEGとして一般的に知られている勧告T.81に、Q15アリスメティックコーディングと呼ばれる別の圧縮技術を加えたものである。JPEGは、1986年にITU CCITT SGⅧとISO/TC97/SC2/WG8グルー

プを上位組織として発足し、現在もITU-T SG16 とISO/IEC JTC1 SC29/WG1として存続している。

・QoS標準化への取組
Key Q0S Challenge tackled

ITU-T SG12は、サービスプロバイダが、VoIP や IPTVのようなサービスを提供するために必要となる、エンドツーエンドのネットワーク性能を実現するための土台となる新しい勧告Y.1542をコンセントした。この標準化作業は、いろいろな接続形態（トポロジー）や距離を持つ複数のネットワーク事業者を経由する場合にもQoSを維持しようとするものであり、NGN（next generation networks）実現に向けた重要な要素技術である。これまでにIPベースのサービスに必要なネットワーク性能や、商用の映像アプリケーションに必要とされるパケットロスによるQoSのクラス分けは、既に勧告Y.1540 及びY.1541として完成している。

新しい勧告Y.1542は、Y.1541で定められたQoSのクラスをベースとして、エンドツーエンドのQoSを達成しようとするものである。

・移動体通信料の低減に向けた指針
Guidelines Aim To Reduce Mobile Call Charges

SG3は国際間の移動体着信料金に対するアンケート結果の分析を開始した。SG3は以前、国際間の移動体着信料金が、固定網の着信料金の5から10倍高いことを明らかにした。アンケート結果の分析と統計の妥当性を確認した上で、SG3ではこの料金差を埋めるための指針を作成する予定である。

・NGNのサービス品質保証契約書が簡単に
Standards Makes SLAs in NGN Easier

SG4で、サービスプロバイダと顧客との間のサービス品質保証契約（SLA：service level agreements）の内容を定めた勧告M.3342がコンセントされた。勧告には、SLAの内容が細かく分類された‘SLA representation templates'と定義及びその使い方が書かれており、QoSとサービスの保証内容が分かりやすくなるように工夫されている。

・NGNにおけるトラブルチケット：新勧告
NGN Trouble Ticketing： New Recommendation

SG4の北京会合で、複数のプロバイダを経由するNGN環境におけるトラブルチケットの取扱いに必要な要求条件とプロトコルに依存しない情報モデルの枠組みを示す勧告M.3343がコンセントされた。勧告によれば、NGNでは新しいサービスタイプに対応した新しいリポートを導入することとしている。また、勧告では通信ネットワークにおける‘トラブル'を、ネットワーク利用者が感じるサービス品質の低下であると定義している。

・バージョン2の道筋を披露
Focus Group Delivers V2 Roadmap?

The NGN Management Focus Group（NGNMFG）は、NGNの管理に対する既存仕様と要求条件に対するより正確なロードマップを作成するために、サービスプロバイダやネットワーク運営者からの意見を求めている。ロードマップ・バージョン1（V1）では、他の標準化機関が作成しているNGN管理仕様とともにITU-TのNGN管理仕様を示し、V2では、ITUと他機関とのギャップ分析を行い、協調していける領域を明らかにした。V2では、NGNにおけるトランスポートストラタムとサービスストラタムの間に機能を管理する上でのギャップがあることを明らかにし、IMS （IP multimedia subsystem）や ASON （automatic switched optical network）のような伝送技術、そしてイーサネットに対する管理も必要であることを明らかにした。今後、このFGではニーズを踏まえて作業をしていくとしている。

⑤ SPU Flash Issue No.9 （8月4日）
（出典：http：//www.itu.int/osg/spu/spunews/index.html）

・ITUニュー・イニシアティブ・ワークショップ：将来の移動体マルチメディアサービスに対する規制環境
ITU New Initiatives Workshop ： The Regulatory Environment for Future Mobile Multimedia Services

本記事の内容は、本号ITUホットライン欄「ITU-BNetzA New Initiativesワークショップ参加報告」に詳述されているので、ここでの掲載は割愛する。

・次世代ネットワーク
IP-enabled NGNs

2006年5月ベトナム・ハノイ市でITU-TとITU-Dの共催によるワークショップ“Next Generation Network”が開かれた。このワークショップでは、1）NGNで使われる技術や標準の現状と動向と、2）NGNによって規制や政策にどのような変化が生じるかが議論された。SPUでは、NGNにかかわる

法規制について継続的に調査してきており、今回のワークショップを始めNGNに関する国際会議で発言もしている。

・ITUサイバーセキュリティ・ゲートウェイの運用を開始：オンラインによる世界的なサイバーセキュリティ情報の提供
ITU Launches Cybersecurity Gateways ： An Online Resources for Cybersecurity Initiatives Worldwide

本記事の内容は、本誌7月号（Vol.36, No.7）P.19に掲載されているので、ここでの掲載は割愛する。

・音声の将来
The Future of Voice

ITUのニュー・イニシアティブ・プログラムの一環として、SPUは「音声の将来」というプロジェクトを立ち上げた。本プロジェクトの目的は、ユビキタスネットワーク環境における音声サービスについて、どんな変化が起きるかを調べることである。このプロジェクトでは、検討資料や地域での問題点、オンラインによる関係資料収集を行うほか2007年1月にジュネーブでワークショップを開催する予定である。

・情報社会の中におけるデジタル化
Digital Transformations in the Information Society

2006年6月1～2日に、ITUとロンドンビジネススクールは、著名な研究者や学者、政策担当者による会合を共催した。会合では、ICTsが経済成長や生産性、産業に及ぼす影響とICTsの指標について話されたほか、デジタルディバイドの改善との関係やeメールにより生産性が向上するかなどが討論された。

・ITU/韓国デジタル・オポチュニティ・プラットフォーム
ITU/Korea Digital Opportunity Platform

SPU、KADO（Korean Agency for Digital Opportunity & Promotion）、韓国情報通信省は、2006年8月31日～9月1日にデジタル・オポチュニティ・フォーラムを共催する。目的は、韓国政府のIT学習プログラム卒業生のネットワーク作りと、ICTによる国際協力、デジタル・オポチュニティ指標について討議することにある。

・WSISに関するITU理事会作業グループ
ITU Council Working Group on WSIS

WG-WSISの第10回会合が2006年9月12～13日、モンブリアンビル、ルームKで開催される。この会合では、1）WSISの成果に対するITUのセクターごと及び全体での取組状況と、2）ITUが情報社会や電気通信環境の変化に対してどのように変わっていくのか、が議論される。

・世界情報社会レポート2006
World Information Society Report 2006

世界情報社会レポート2006は、世界中で進められている情報社会構築に向けた動きを追う新しいITUの年報の第一弾である。デジタル機会の拡大やデジタルディバイドの動きをまとめるとともに、各国のデジタルディバイド解消に向けた取組を示すデジタルオポチュニティ指標を初めて公表する。詳細は、www.itu.int/wsirから。

・次世代通信網のためのルール
What rules for IP-enabled NGNs ?

SPUは、2006年3月23～24日にジュネーブで開催したワークショップ“What rules for IP-enabled NGNs”の結果をまとめた小冊子と、全会合資料や15時間分以上の関連映像などを収録したCD-Romをパッケージにして公開する。このパッケージは、日本の総務省の御支援により実現したものである。詳細は、www.itu.int/spu/ngnから。

・ネットワークの明日
Shaping Tomorrow Networks

2005年10月7～8日にイタリア、セントビンセント（アオスタ）で開催したワークショップ“Tomorrow's Networks Today”の概要をまとめた小冊子と全会合資料を収めたCD-Romをパッケージにしてまとめた。詳細は、www.itu.int/stnから。

・若い世代との交流
Interacting with the young generation

2006年の5月と6月にSPUは、IFM大学、ローザンヌ・ビジネス・スクール、INTそしてミシガン州立大学の学生達と相互交流を行った。目的は、ITUの活動を理解してもらうとともに電気通信業界で起きているダイナミックな変革についての意見交換であった。